

EspressChart

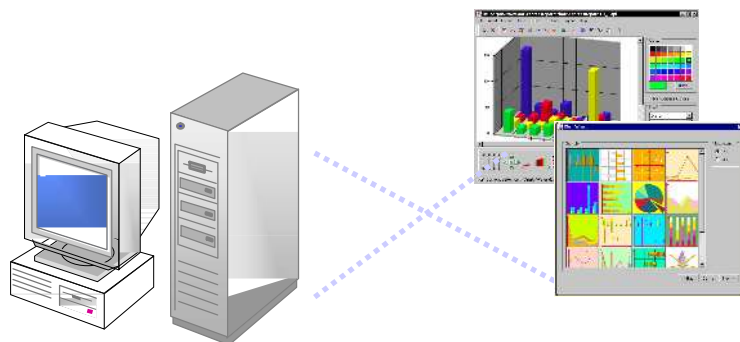
実使用説明書



www.climb.co.jp/soft

EspressChartのサポートするアプリケーションサーバーとプラットフォーム

対応プラットフォーム
Windows 9x, 2000, XP, NT, 2003
Sun Solaris, Linux, HP-UX, IBM
AIX/AS400



対応アプリケーションサーバー
Tomcat, JBOSS, WebLogic™,
WebSphere™, Oracle, Sun

EspressChartの生成方法

EspressChartの生成方法は4つあります。



Javaアプリケーション

EspressChart APIを使用して、Javaプログラミングでチャートが生成される。



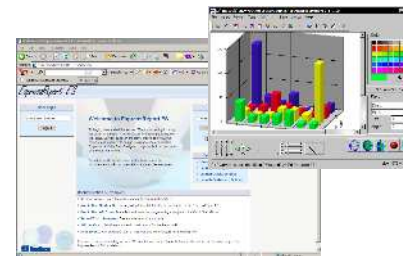
GUIチャートデザイナー

EspressChartのdesigner.batファイルを実行して、ビジュアルなツールでチャートを作成する。



ウェブアプリケーション

アプレット又はサーブレットでEspressChart APIを使用してチャートが生成される。



ERES チャートデザイナー

EspressReport ESのチャートデザイナーでチャートの作成又は編集を行なう。

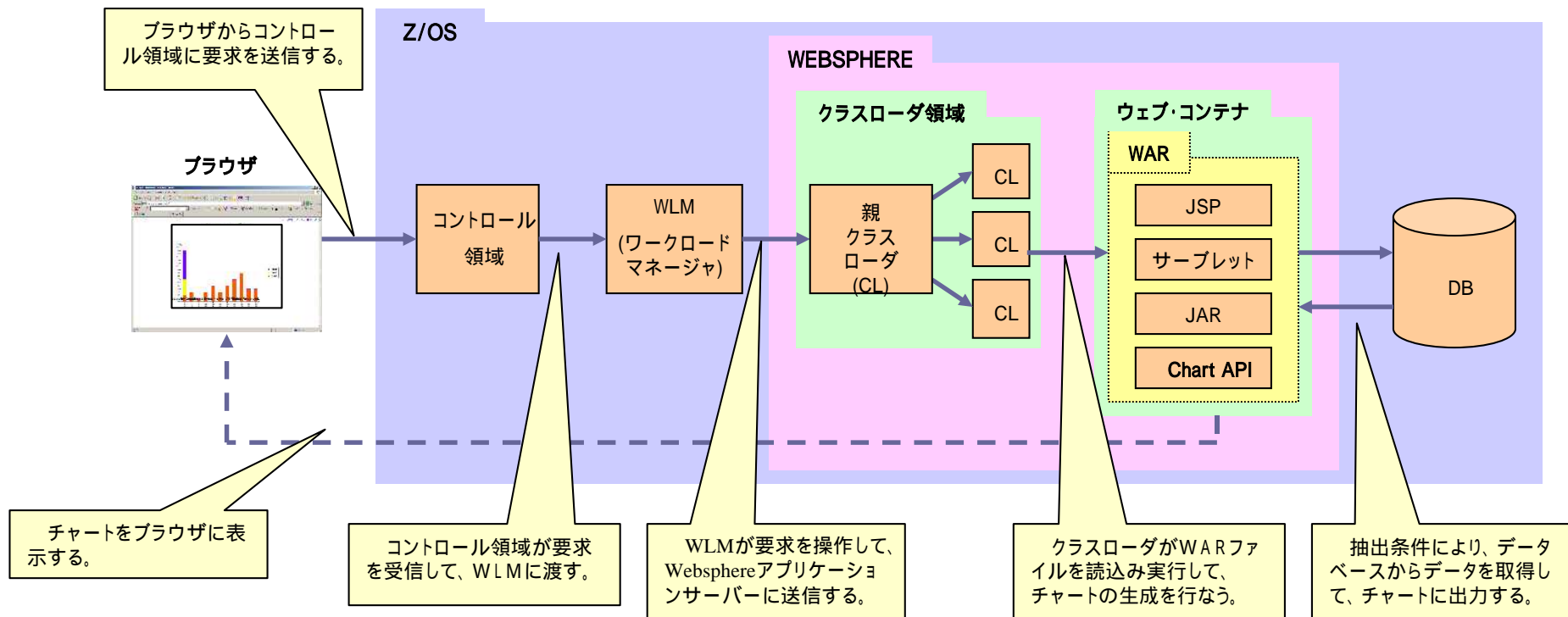
業務に対するEspressChart実現の体制

EspressChartの機能を使用したさまざまな作業実績環境を、以下に示します。



シナリオ1:

プラットフォーム: Z/OS アプリケーションサーバー: Websphere データベース: Oracle
処理: ウェブアプリケーションでチャートを生成する。

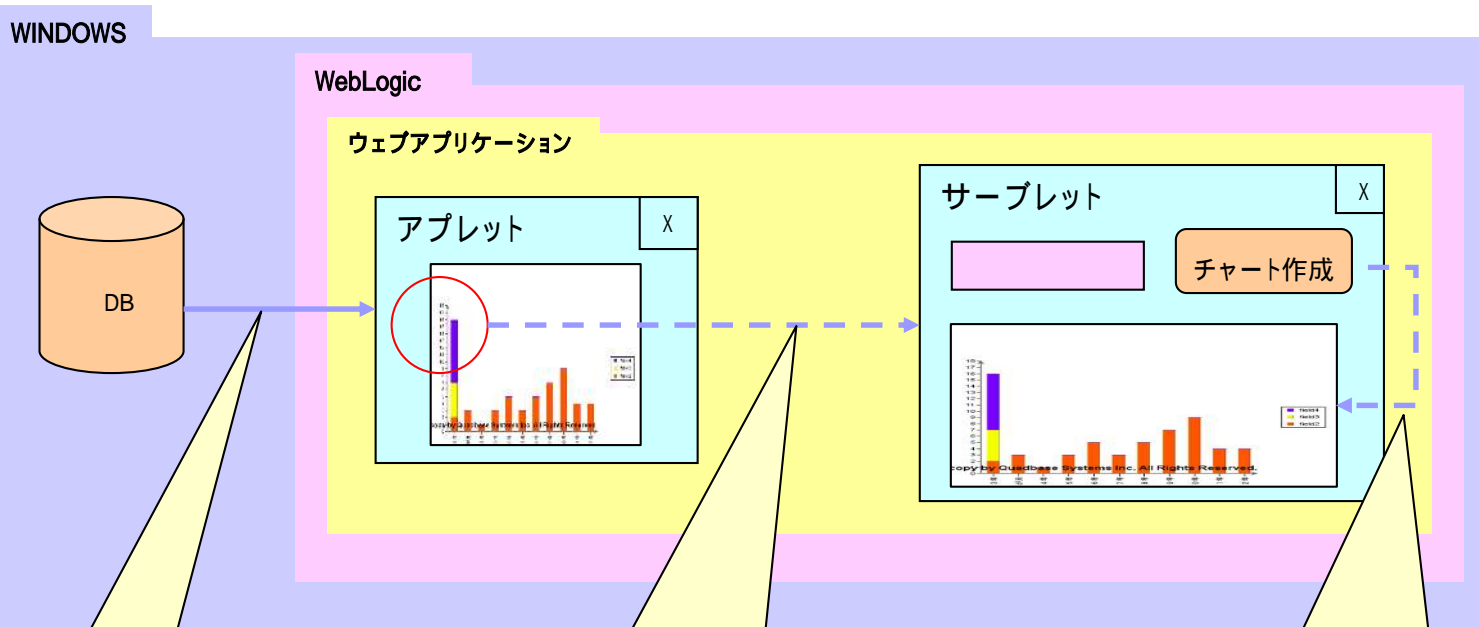


業務に対するEspressChart実現の体制



シナリオ 2:

プラットフォーム: Windows アプリケーションサーバー: WebLogic データベース: MsAccess
処理: EspressChartのDrill-downとハイパーリンク処理を行なう。



DBからデータを抽出する。
Javaアプリケーションで抽出したデータをチャートに変換して、アプレットに表示する。

ハイパーリンク処理:
チャートオブジェクト毎に設定されているハイパーリンクを押下する事により、チャートオブジェクトのデータを取得する。取得データを抽出条件としてサーブレットでチャートを生成する。

Drill-Down処理:
コンボボックスでチャートに表示するデータに対しての条件を選択する。「チャート作成」ボタンを押下すると、選択した条件によりチャートが生成される。

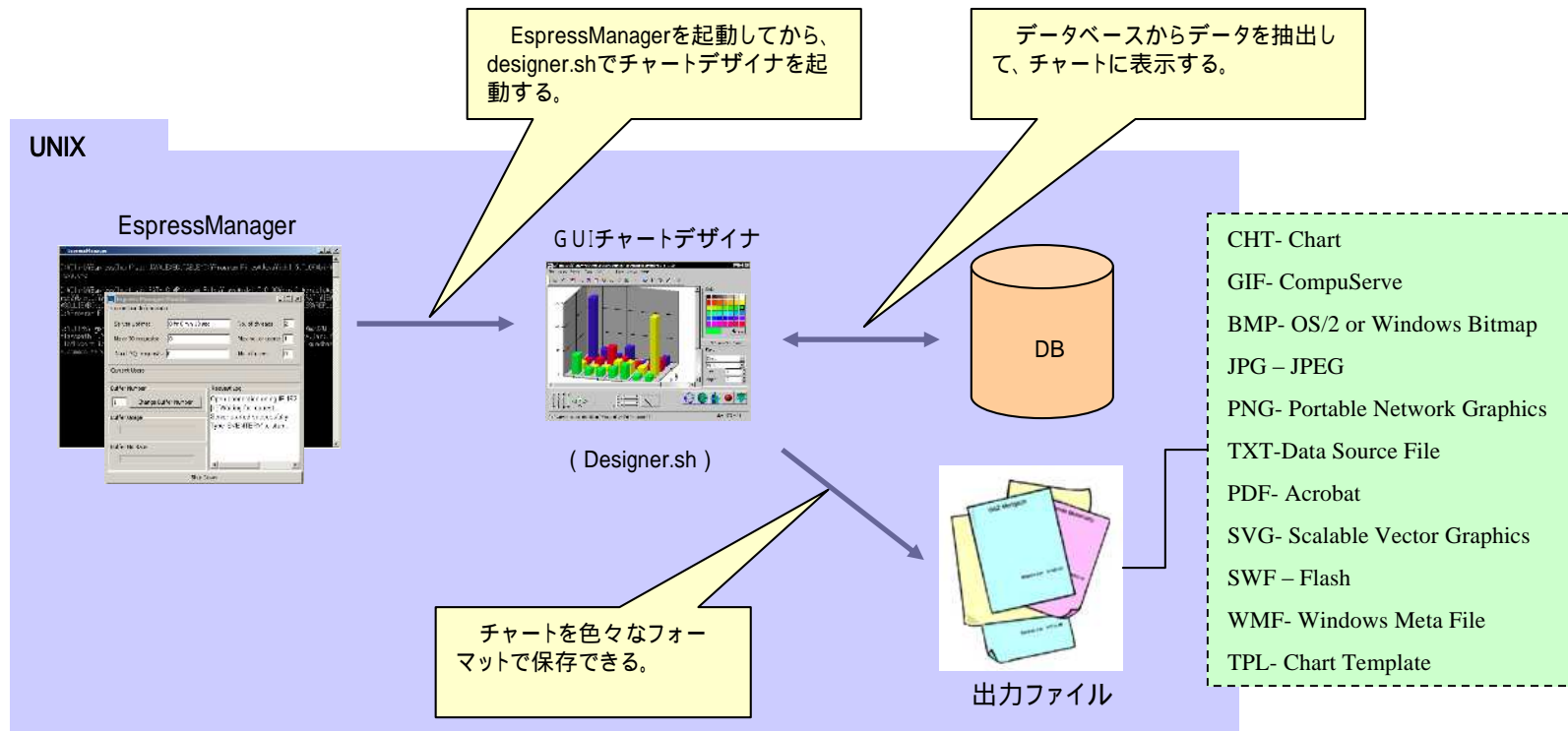
業務に対するEspressChart実現の体制



シナリオ3:

プラットフォーム: Unix データベース: MySQL

処理: GUIチャートデザイナーで(designer.sh)で生成したチャートを色々なフォーマットにエクスポートする。

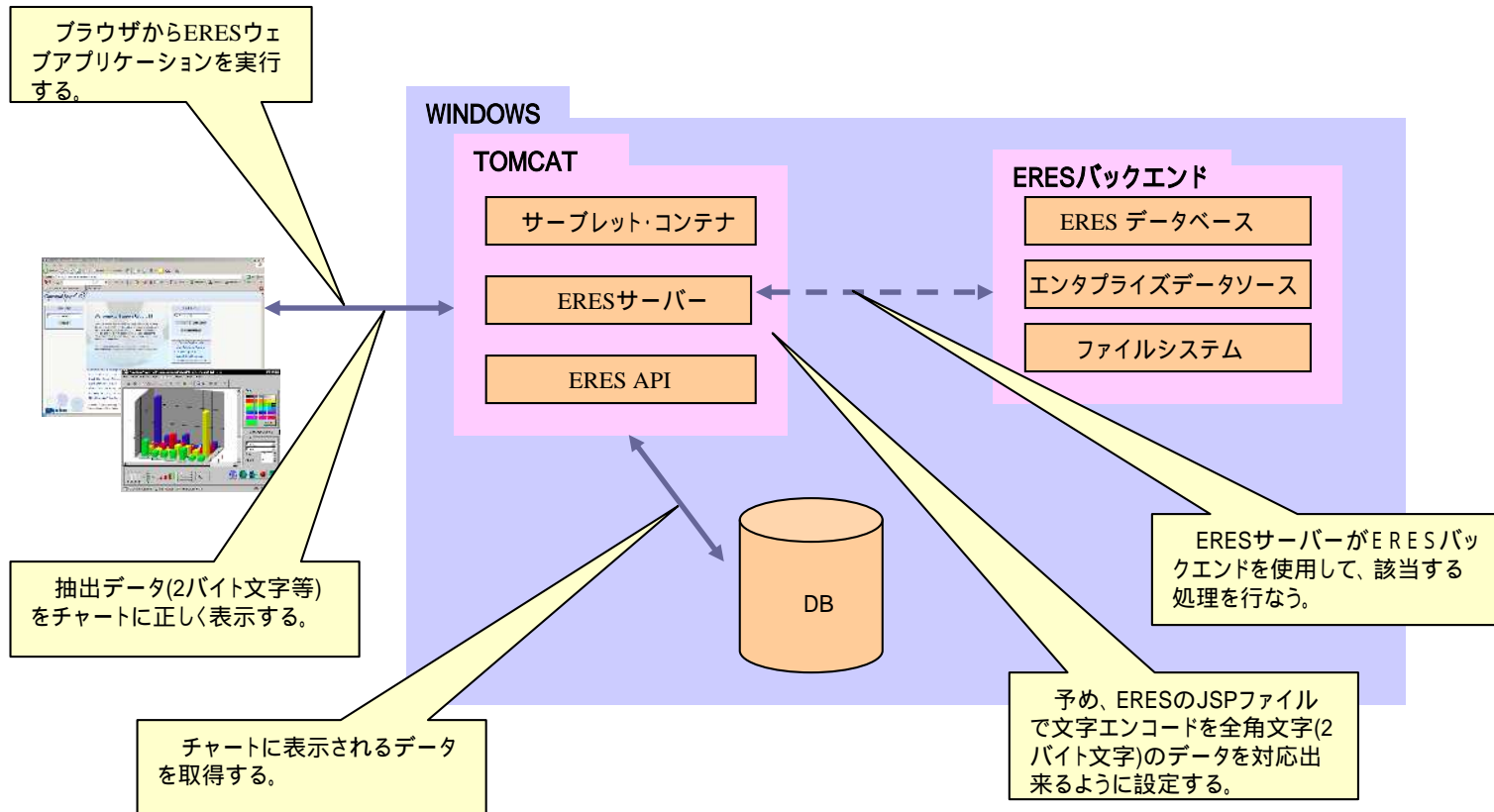


業務に対するEspressChart実現の体制



シナリオ4:

プラットフォーム: Windows アプリケーションサーバー: TOMCAT データベース: DB2 UDB
処理: データベースから取得した全角文字(2バイト文字)データをチャートに正しく表示する。

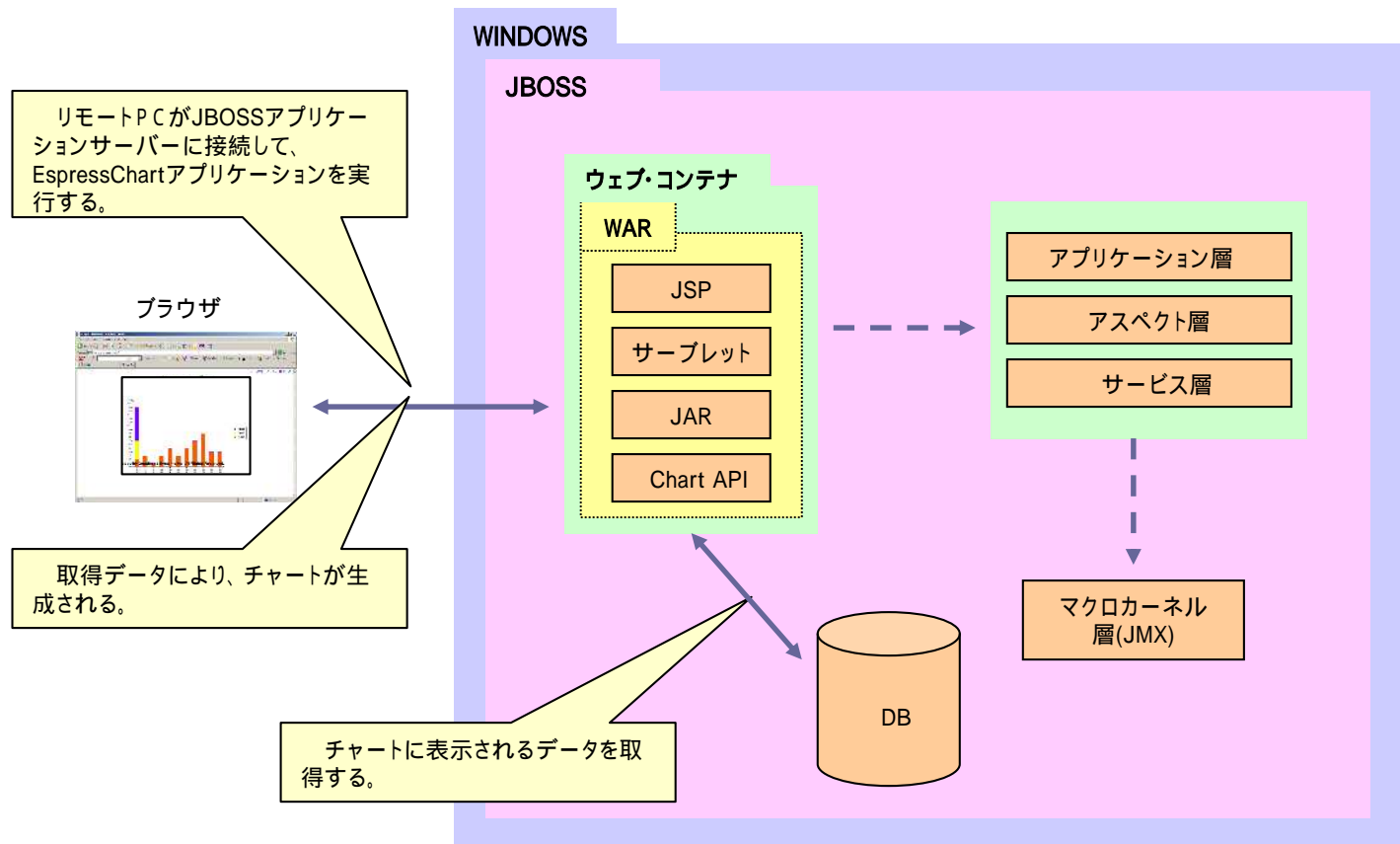


業務に対するEspressChart実現の体制



シナリオ 5:

プラットフォーム: Windows アプリケーションサーバー: JBoss データベース: Oracle
処理: リモートPCでユーザがチャートの作成、編集が行なう。



業務に対するEspressChart実現の体制



シナリオ 6:

プラットフォーム: AS400 アプリケーションサーバー: SAP データベース: MaxDB

処理: EspressChartデザイナーを使用して、SAPMaxDBデータのチャートを作成する。

